



# 少子高齢化を考える

本町議会では、町の進むべき報告や課題などのテーマを設け、議員討論会を開催しています。

12月定例会では、「少子高齢化」をテーマに各議員がそれぞれの思いのもとに論戦を繰りひろげました。

## ○少子化をどうするか。解消する手立ては。

**【野口俊】** 人口減少は、移住・定住策で数年なら先送りできるが、長くは持たない。結婚により子どもが増えることでしか少子化は解消されない。

**【大杖】** 合併時に128人だった出生数は、昨年には80人に落ち込んでいる。安心して子どもを産み育てられる仕組みと、未婚者への結婚奨励策が必要だ。

**【森本】** 過去の人口増加の背景には、産業の発展があったが、AIやICTという人を必要としない産業が伸びる現代では期待は薄い。結婚を望む人の成婚率を上げねば、出生率の回復は望めない。

**【西山】** 本町では、次世代育成支援行動計画と子ども子育て支援計画を策定し、質の高い保育の提供や子育て支援の充実をはかっている。保育に力を入れることが少子化解消に役立つ。

**【池田】** 出産を経ても職場復帰しやすい環境、男性が積極的に育児参加する環境が必要だ。そういう環境にならないから、女性が出産をする

気持ちになれないのではないか。

**【西尾】** 町長は合併後初めて人口が社会増に転じたこと誇らしげだが、人口の奪い合いではなく婚活に力を入れてもらいたい。

**【吉原】** 子育てや教育にかかる経済的負担、働く女性の増加と晩婚化、それによる高齢出産へのためらい、出産による復職への課題、核家族化で祖父母の支援が受けられない、などの問題に施策で対応すべき。

**【門脇】** 推計によると、30年後には本町の人口は半数になる。しかし、町民の危機意識は薄いのではないかと。行政として現実を繰り返し周知し理解を求め、あらゆる施策で実績をあげなければならぬ。

**【野口昌】** 国策で臨まなければ人口増はあり得ない。個人の自由が尊重されることも大切だが、後世に何を残せたかにも注目される世の中でありたい。

**【近藤】** 子どもを望まない女性や結婚を望まない若者が悪い、という発想ではなく、なぜ実効性のある方策が出てこないのかを考えるべき。そのためには、女性や若い

世代の議員を増やす必要がある。

**【大森】** 本町の人口社会増は子育て支援策の成果で、これを持続的なものにしなればならない。

**【岡田】** 未婚率の増加、晩婚化の進行、非正規雇用の増加などで、出生率は低迷している。これらの原因を解消する施策を打たねばならない。

**【大原】** 3世代同居や近居を支援することも必要だ。町外に出ている若い世代を集落に呼び戻す呼び水になる。

## ○高齢化は どう対応するか。

**【西山】** 社会との結びつきの場や受け入れの場など、高齢者がいつまでも元気で暮らせる社会の仕組みづくりが必要だ。

**【野口俊】** 少子化対策や移住定住策に重きを置いているように感じるが、本町の発展を支えてきた高齢者に感謝の意を示すべきだ。

**【森本】** 人生100年時代に元気で過ごせるのは良いことだが、支える社会の体力がなくなってしまうことが課題だ。少子化を少しでも



減り続ける出生数

解消し、支える側の体力を維持する必要がある。また、いかに世代間で助け合う精神の醸成をしていくかも課題だ。

**【門脇】** 長生きすれば、生活を一変せざるを得ないこともあるが、その際に周囲の人や行政が可能な限り本人の希望に沿って対応することが求められる。

**【池田】** いかに健康で年齢を重ねるか、そのことで支える側の負担軽減をはかることが大切である。

**【吉原】** 要介護になる前の対策が大事だ。栄養、運動、社会参加などを地域社会全体で支え、要介護状態になるリスクを抑えたい。

**【大森】** 健康寿命を延ばすため、健康づくりへの助成も考えてみてはどうか。また、社会福祉協議会との連携強